十二月十四日夕刊

常磐毎日新聞

夕刊

定價一部金貳錢　月金五拾錢　郵便五厘
廣告料五號十二字詰一行金五拾錢
日曜祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町三五
發行所　常磐毎日新聞社
電話六三〇番
印刷所　常磐毎日印刷株式會社

陣中想出話（五）

平町出身
歩兵第廿九聯隊第三中隊　水野重光

橋本偵察隊搜索の記

時は天高く馬肥ゆるの候拾月九日午後二時頃威虎嶺警備隊にけたたましき電鈴が鳴り響き何たか不安な豫感におそはれながら受話器を耳に當てれば『二九一』栗城橋梁哨長よりの電話で其の非常報告に依れば本日午前拾時部下橋本上等兵以下三名と通譯として日本人二名亦道案内として支那人一名を同行して約二千米南方の山道河附近の部落の地形を偵察の任務を與へ、一行は元氣良く出發せしも現在（午後二時）に至るも未ぞ歸來せざる、のみならず同行せし支那人一名歸りて曰く

『一行は向ふの山にて目下馬賊と戰斗中の如しと」

依つて只今山田一等兵以下二名を取り敢す應援の爲めに出發せしめたりと、此れを聞いて小隊長『全員武裝シテ出動準備セヨ』と命して取り敢ず中隊長に此狀況報告をなし、且各橋梁哨へ待機を命ぜられ之忙しき内にも着々として準備は進み、二時四拾分小隊長以下まず、吾等一行の氣は現場に走りしも体ば進まず、其時幸にも前方より『ハンドカー』一臺進み來りたる故吾等は二臺に分乘し、途中『二八八』橋梁哨より三名を增して勇ましく進行し遙に『二九一』橋梁哨を望む事を得たり、此處に於て各方面より集合せし兵力を集結して草野中尉の指揮する二拾數名となりたり。吾等は如何にしても二本上等兵一行を救はんと堅き決心を得つて勇躍前進す。折から拾月初めの風は陰氣にして冷雨さい交りいかにも一行の生死を暗示する樣な不氣味な天候である。

一行は途中の部落を掃蕩しつゝ次だいに進み早や一里程の地点に達せり今は早や薄暮なりもはや此の附近には匪賊の集團も思はるゝものを見ず・勿論戰斗せし敵は逃走せるならん、思は戰友等の上に走れる總てを忘れて夕闇の中佇み深い冥想に耽つてゐる自分の姿を見出した、かうした神秘的な夕暮の中に一人佇みト彼等の悲慘な幻想を描いても見亦彼等の元氣な姿を空想しかうした一時の空想がさめればやはり今は現實の時である。

ノート

牛乳榮養の子供は勿論、母乳榮養の子供にも、授乳時外に口淋しいやかましさから、逃れんと空乳首を常に口に入れて置く人が少なくないやうですが、口を荒しいやしい習慣をつけますから、用ひぬ方がよいのです。

七名の警備隊員は手押『トロ』にて工務段の苦力四名が力を合せて出發せり、しかし行手は遠く五里の路にて手押『トロ』は遲々して進

潮聲硯靜帖（四）

北斗莊小情

白山茶花かたちはかりの庵かな　松堂

醜草の毛花とひけりこ春緣

無花果をまた落されし鴉めに

無花果に鴉威しの赤い旗

拾ひ見る鉢の公孫樹の黃葉かな

二日間の獻立

【朝】じやが芋　こかぶみを汁

【晝】えび　貝柱の天ぷら

【晩】くわゐ　揚けゆばの煮〆

開業廣告

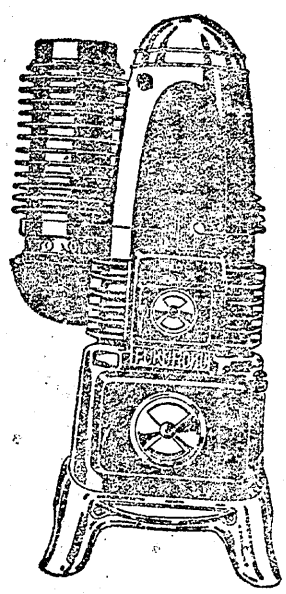
外科　醫學博士　渡邊義夫
全般
內科　女醫　渡邊きい子
小兒科

入院應需　渡邊外科

平町田町大通り（電話二七七番）

◇日本一低廉保險◇
愛國生命保險株式會社
有給社員募集
履歷書持參本人來談あれ！
平代理店　松崎長三郎
平町新川町

毎度御ひいき
有難ふ御座ゐます
うなぎの御用命は
うなぎ奴
平町田町（電話二二番）
ホール御座敷の設備あります。皆樣の御立寄を!!



嚴冬の征服者
福祿ストーブ
戶毎に福祿！四海は常春!!!
電話三七番へ
カタログ御申越下さい早速持參致します
福祿ストーブ福島縣一手販賣
阿部石炭商店
平停車場前

金銀高價買入
質札は（金時計鎖指輪類）有利に御相談致します
平町二丁目（三幸堂跡）
根本時計店
電話六〇七番

高級貸切
不二タクシー
電・3 2

中村齒科醫院
平町鍛冶町七

氣管食道科
平南町（電話一七〇番）
大和田醫院

紺屋町の角に「廣小路」實現か

縣の意嚮漸く緩和

平署跡の敷地處分

平町舊平警察署敷地跡は平署廳舍の移轉直後から平町當局が無償讓渡を縣に懇請山崎合名營業所角から紺屋町側まで直線に約六拾坪を道路に擴張すべく計畫を進めたが該計畫も縣當局の財源難から一蹴される處となり其の後縣當局では表敷地二百四拾六坪、舊署長官舍敷地百坪、合計三百四拾六坪の有償拂下げを以つて臨んだが拂下げ價格の点で折合はず移轉後數年を經た今日に至るも纏まらず現在紙芝居やドラ燒の屋臺店まで乘り出して附近兒童の遊戯場と化してゐるが地元紺屋町では依然最初の計畫通り三角の道路を擴張同地を廣小路として激甚な交通量を緩和されたしと町當局を督して屢々縣に無償讓渡を迫つてゐた處此程縣當局では道路擴張分の六拾坪以外を平町が坪平均廿五圓程度の價格を以つて買收に應ずれば道路擴張分の六拾坪は無償讓渡すべき内意を洩らすに至つたので近く青沼町長は町會各派の意向を探つた上で縣當局に對し正式交渉を開始する事となつた

同情袋……

割合に成績よく

期間中に五百圓突破か

既報平町役場では昨日からの同情週間に貧困者救濟資金の募集に着手したが昨日は長橋、研町、古鍛冶、紺屋町、材木町、鍛冶町方部の各戸を共濟委員其他が歴訪した結果同情袋の寄附金は百三十五圓五錢に達したのでは此の分で期間中に計なく五百圓になるといづれも意氣込で居ると

推肥指導

講習會開く

石城郡神谷農事試驗分場では推肥增殖改良指導員の養成講習會を明年一月拾二日より拾四日迄及び二月四、五日の兩回開かれるが講師は縣農務課の田中技師である

俺達の……

意氣を見よ

磐中生に寄せた

二高生の飛激

磐城中學校出身の第二高等學校在學生より成る二高磐中會にては去る十二日總會を開き桐谷邦雄　沼田一夫　岩崎武　市村三郎　吉田源太郎　吉田榮延　星恒雄の七君出席々上左記寄せ書を母校宛に寄せた

入學難もさりながら近時運動部の衰弱を聞く往年の磐中何處？數は少いがガッチリして居る俺達の意氣を見て吳れ量から質へ諸君に送る言葉は唯これのみ桐谷收容人員のみ多くて上級學校入學者の少い事で斯界に名を上げる樣では駄目ですね生徒に强ひる前に諸先生の御奮發を願ひ上げます（沼田）母校の名譽の爲め何はともあれ先生と磐中健兒との精神的合体を望む（吉田）

號令入りの漬物

急迫お百姓連の丹精で

結球白菜見事な上出來

磐中作業科の收獲

縣立磐城中學校では今春四月作業科の新設と同時に同校庭西側の空地約三百五拾坪を解放して菜園を設け全校生徒に農事作業や蔬菜栽培の實地指導を行つてゐるが無器用な手付で鋤鍬を揮つた小倉服姿の急造お百姓連が丹精こめただけあつて菜園一杯に蒔かれた白菜が最近見事に結球したので生徒も先生達も大喜び今日拾四日國分教諭が先立ちで此の白菜全部を拔取早速大樽拾數本を昇ぎ込んで校舍の一隅に號令入りで漬物作業を開始したが殘つた白菜は市價より安く一般希望者に分讓すると尙漬物にした白菜は全校生徒の晝食辨當にお惣菜として全部を提供する事になつたと

歲末押し迫つて

縣稅滯納の公賣

縣稅務平出張所では七年度前期分縣稅の滯納者千七百六十一名（金額一萬七百圓の强制執行を行つたので廿二日平稅務出張所廿四日植田、小名濱兩町役場にて夫々差押品を公賣に附すと

麥手入の注意

石城郡農會では各農村共稻收獲の一段落を告げ麥の手入季となつたので近くその注意書を發すると

高井視學官

磐中を視察

本縣高井地方視學官は昨日平着午後四時四十五分にて來平本日磐城中學校を視察した

蕃殖馬の健診

石城產馬組合では蕃殖馬の健康診斷を左記日割にて行ふと

（十八日より四日間）三坂澤支（廿三日より六日間）磐崎、上遠野、入遠野

許可し放しで後はお構なし

業を煮やした江名町が漁港促進の運動

石城郡江名町字中ノ作漁港修築問題は双葉郡折戸港と漁港爭奪を演じた結果漸く實現の決定を見たが其後縣當局は何等修築工事の準備を運ばず主務省技術官の實地調査すら上申する模樣もないので業を煮やした江名町では去る拾日急施町會を開き工事促進に就いて協議した結果昨拾三日河野町長漁業組合長の一行出縣後直ちに主務直に出向工事促進の運動を起すと

洋裁講習開始

既報平婦人會及び女子青年團主催の洋裁講習會は本日より開始したが出席者六十一名ある由

美味！芳醇！
宗正らひた
山崎合名會社
電話一〇番

旭硝子株式會社製品
赤菱印
板ガラス
製造販賣
菓子壜
硝子食器
其他各種
松崎硝子製作所
平町新川町（電話一四二番）
◇支工　仙臺市榮町（電話五九七番）

犯罪豫防デー

注意徹底に大宣傳

平署が縣刑事課と聯絡

廿二日より廿八日まで

平警察署では來る廿二日より廿八日迄縣刑事課と聯絡して第一回の犯罪豫防デーを大々的に行ふ爲めポスター宣傳ビラ等を配布して犯罪豫防の徹底を計る事とになつたが近く左記の如き注意書を各戸に配布すると

（一般の家庭）▼戸締の奬勵▼物品放置せぬこと▼奸商に注意▼現金取り扱ひに注意▼失業者浮浪者に注意（宿屋料理店）▼身分不相應の豪遊をなすもの▼危險物を携帶して無錢宿泊遊興するもの▼金錢立替詐欺▼仲間喧嘩のふりして無錢宿泊遊興するもの▼婦女子連れ込みに對する略取誘拐の注意（質屋古物商）▼身分不相應の入質賣却するもの▼史跡參考品の入質賣却▼短刀劍銃の入質賣却（銀行と會社）▼恐喝的言辭を弄して寄附を强謂するもの▼金錢出納には責任あるものを發らしめること▼現金の托送するもゝの身元證明▼不正債券の賣買▼窓口で金錢を置去りするもの、注意（學校や湯屋）▼戸締りの勵行▼宿直員の校内巡視點檢▼成るべく現金を置かぬこと▼番臺には責任能力者を置くこと▼貴重品は番臺に預けること▼甚だしく長時間或は短時間の入浴者は特に注意（興業場其他）▼婦女子に戯れる不良少年に注意▼雜踏の場所で袂金錢を入れ置かぬこと▲公園等の密賣取締（乘り物注意）▼營業者は乘客中の擧動不審者に注意▼早朝又は夜遲くの貸切乘客で身元の判らぬものに注意▼同業者又は運轉手と稱し營業者を訪問して金品を詐取する者に注意▼逃走犯人が往々自動車を利用するので下記事項につき警察に速刻届出るやう依賴することイ、擧動不審の乘客ロ早朝に途中から乘る怪しきものハ、貸切で濫に行先を變更するもニ、途中で停車させ運轉手に書面や品物を届けるやう依賴するもの▼晝夜を通じて待合室を徘徊するものに注意▼待合室に携帶品を放置せぬこと▼驛構内貨物置場に濫に出入するものに注意（各官廳と警察の連絡）▼被害届は特種の暗號等を作り速刻届出ること▼警察署の電話番號の衆知を計ること

門松用か？

若松の盜伐相次ぐ

松林の所有者が悲鳴を擧げ

取締り方を平營林署に懇願

正月も間近くなると平町近郊の平窪中鹽山、片寄山、谷川瀨山、神谷堺の鎌田山等に國有林や民有林から若松樹の盜伐被害が續出殊に此の二、三年前から急激に增加して松林所有者は各れも悲鳴を上げて居り今年は未然に松の盜伐を防止しやうと松林所有者間で寄々協議中だが何せ廣い山中での事であり三人や五人の監視人では到底防止出來ず結局平營林署に此の取締り方を願出る事になつたが此の松樹盜伐に就いて平營林署當局では

例年の事で當局でも可成り嚴重に監視はしてゐるのですが枝だけなら未だしも若松の根元から伐つて終ふので被害も甚大です平町附近には民有林が多く當局としても民有林の監視までは手がとゞかずにゐたのですが何んとか防止策を講じなければなりません」

と語つてゐた

鑛泉宿の泊り客

屋根傳ひに逃走

散々豪遊の揚句に……

石城郡大野村字玉山鑛泉湯の澤旅館石屋事草野又藏方へ去る一日より平町南町醬油販賣業時澤牛之丞と稱する三拾五、六才の男が宿込み豪遊を極めた揚句去る拾二日夜拾一時頃家人の寢鎮つたのを奇貨として宿料其他二拾餘圓を踏倒して屋根傳ひに逃走行衛を晦したので届出により平署で目下犯人嚴探中

父親の心配

悴は何處に

石城郡鹿島村字三島居住農山崎豊治三男勇（一九）は去る拾二日午後四時頃家の使に平町へ出掛た儘行衛不明となつたが同は貯金拾二圓餘を持出して居るので何處へか出稼に行つたものらしいと本日平署に父親から捜索願があつた

明日のラヂオ

仙台放送局

十五日

今晩も明日も北西の風晴れ

天氣豫報

今晩の部

▼後六、〇〇（子供の時間）少年映畫劇「少年忠臣藏」澤村宗之助外忠臣藏花暦十四

▼後七、三〇 歌澤「假名手本三都花文字」歌澤寅松外

▼後八、〇〇 放送舞臺劇「清水一角」澤村納子一座

▼後九、〇〇 講談「義士の討入」一龍齋貞山

▼後九、四〇 全國ニュース氣象通報 番組豫告

明日の部

▼前九、一〇 料理獻立「里芋と牛肉の煮込み」松本良雄

▼前一〇、三〇 家庭講座「家庭に於ける工業常識」津田信良

▼後〇、〇五 吹奏樂 海軍々樂隊

▼後二、〇〇 家庭大學講座「倫理學社會道德」東大講師大島正德

▼後五、〇〇 受驗講座「幾何學」高見豊

▼後六、〇〇（子供の時間）童話「鹿になつた弟」鈴蘭こども會

▼後七、三〇 浪花節の夕

▼後九、三一 滿洲より

白銀夜警開始

平町白銀町青年團火防部にては今晩より夜警を開始すると

平商の寒稽古

平商業學校柔劍道部にては來春二月一日より十日間寒稽古を行ふと

平裁判たより

△東京市荒川區尾久町二丁目四十八番地紙行商三富榮次（三三）が去る八月午前六時頃平町白銀町旅館伊達屋方に投宿中同宿人熊上壽己所有の現金五十圓を竊取せる竊盜事件の公判は本日平區裁判所に於て竹内判事係り上田檢事及び吉田書記立會の下に開廷され事實訊問の上拘留された

夏井農作品評

石城郡夏井村農會では來る十七日より三日間同村小學校に於いて農作品評會を行ふべく目下準備中

平職業紹介所報告

回 人を求める方

△鐵工徒弟 二名 十六才 尋卒 仕着小遣（小名濱町某）

△女中 二十五迄 尋卒 月三圓外チップ（平町某料理店）

△出前持 二十才前後 尋卒 給料面談（平町某カフエー）

△塗師手傳 二三名 委細面談（平町某工場）

回 職を求める方

△女中 三十三才 高一修 給料面談（內郷村某）

△機械工 十五才 高卒 給料面談（平町某）

△土工夫 二十六才 無學 給料面談（双葉郡某）

△鍛冶職 十六才 高卒 給料面談（磐崎村某）

△豆腐賣子 五十五才 讀書し得 給料面談（新潟縣某）

看護婦急派の求めに應じます

平町南町

平看護婦會

電話三〇七番

印刷物は命から出て

御用

常磐毎日新聞社

電話三〇六番

藤沼醫院

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第二百廿四席　平手造酒

笹川身内敵討に出立

繁藏の死骸を前にした大勢の子分等と共に其の場へ駈付けて來てゐた神崎の友五郎は、子分の者等に繩張を減らさぬやうにしろと注意をしで死んだものは仕方がないとは思ひながらも、それにしても卑怯な殺し方だが、一體誰が下手人か、と思つて來合して居る子分でも頭立つた富五郎に向ひ友『富や、一體之は誰が下手人か心當りもあるだらう繁藏の怨みを晴らしてやれ』

富『ヘエ、どうも飛んだ事になりました、私も今其事を考へて居ります』

友『ウム左樣か、相手は曲者だ、油斷をするな』

と云ひ含めて置いて戻つた、扨七日七日の追善も濟んで丁度繁藏が世を去つて四十九日の忌日の日勢力富五郎が重立ちし子分を集めて

富『親分を殺したは飯岡の奴等に違ねえ、神代の宇右衛門さんの許から歸るを待ち受け、あの蛇山で槍で突き殺した、親分は平常、天保線を繋いだ網襦袢を着て居たが、あの夜に限り腰の刀の鞘が鳴る其れは斬れ斬れと催促する爲であらう、思ひ立つたが吉日、又兵は神速を尊ぶといふ事がある、直に行け、俺も今夜はこの腕と刀の目釘の續くだけ斬つてくれる』

富『どうぞお願ひ申します』

茲で居合せた人數を調べると十六人、散つてゐる子分を集めれば七十人や八拾人は寄利がそんな餘裕はない、戰ひは人數の多少に依つて勝利を得るものでは無い、要は人心の一致にあるこの拾六人が死なうと決心を脱いで居たは死ぬる前兆只此の上は冥土に居る親分を喜ばしてやるが何よりの功德、さうするには助五郎の首を墓に手向けるが第一今夜にも飯岡に斬込むことにする、お前は何う思ふ』

○『どう思ふものかな親分の敵は助五郎だ、一日も早く彼奴を殺して親分の敵を取らねばなるまい、今夜直出かけよう』

富『平手先生、今夜斬り込みます、一と働きしておくんなさいまし』

造『ウン承知した、今夜此したから()は助五郎の許に何百人居るとも恐るゝ處は毫もない、と平手に勵まされそれでは此の人數で押寄せ樣と評議一決した、夜の事ですから皆目印に白の木綿の襷を掛けた、其時繁藏の女房が酒と肴をそれへ持つて來た、魚()は根川の名産、鯉の生造り、繁藏の家は旅籠屋と料理屋をしてゐるから何でも出來る鯉は片身洗肉になつて片身はそつくりしてゐる、目に紙が張つてある、大きな皿に載かせてそれ〳〵出し紙を除くと、バチ〳〵〳〵と鯉がはねる、造酒はこれを見て

造『宜い魚だな、これなら飲めるぞ』

と其を喰べ酒を飲む鯉は自分の身を喰べられることゝて黑い目を光らして怨めしさうに見てゐる

○『まだ、生きてゐるだらう』

と目にわさびを入れる、スルト鯉が又ピン〳〵はねる、動物の肉で人間程慘忍なものはないと云つた者があるが、それは本統らしい時に造酒が一刀を引拔いて鯉の首をスツパリと切り

造『今夜助五郎の首をこの通り斬つてくれる、貴樣達も今夜は死ね、命を持つて歸へると思ふな』

○『先生、そんなことを云ふはムダ、素より命は今夜限りと覺悟して居ります、親分の爲にすてるんだ笑つて死にますさ、ア宜ければ出かけやうぜ』

と日暮を幸ひ一同門口へ出ると五ツの手桶に水が一ぱい張つてある、脇差の柄に白木綿を捲いてあつたがこれは辷らぬ爲、そこへ水をサツと掛け充分に濕りをくれこれを腰に帶び

○『姐さん行つて來ます』

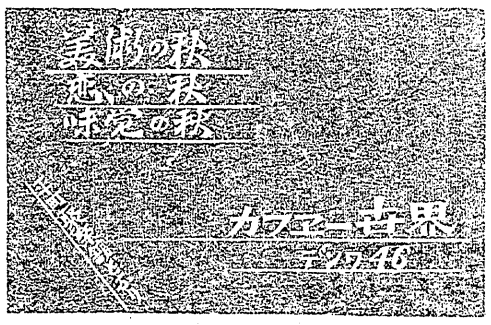
と言ふと繁藏の女房が女『親分を佛樣にしてやつておくれ、今頃は地獄でお前達のすることを見てゐるだらう』

○『エヽ、どうせ私共も今夜は冥土へ出立します、さうすれば親分にも遇へます其時に助五郎を殺らした話をして喜ばせませう』

女『賴むよ』

カチン〳〵と切火を掛けた、ソレ行けと笹川を後にして拾六人が飯岡にと押寄せる

一册の代金で
御希望通りな
五册の雜誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
（申込次第規則書進呈）



市原醫院
平町田町
電話一一四番

江戸前料理
含雀
寄なべ　はまなべ　鳥なべ
ちりなべ　かきなべ
▽出前！迅速！△
錦水
電話四五四番

吸入用酸素
純度99%
度量衡
モノサシ
マス
ハカリ
計量器
体溫器
寒暖計
◎秤ノ取緒。垂糸。修繕致シマス
開内藥局
電話四〇番

内科・小兒科・花柳病科
藤沼醫院
入院需應
平町紺屋町
電話五〇七番

外科
專門
X光線科
上田外科病院
平町南町
電話一二九番